



水にまつわる擬音語



東京都水道局 津田 華子
(令和7年度抄録委員会委員)

水は、資源として人々の生活を支える物質であるだけでなく、信仰・芸術・文学など、文化的な側面においても根源的な役割を果たしてきました。古代文明が豊かな水を湛える大河流域に生まれ発展したように、人間の生活や社会基盤の形成は「水」と密接に結びつき、水は日々の暮らしの中で常に身近な存在としてあり続けてきました。

そうした人々の生活に根ざした文化の一例として、「擬音語 (オノマトペ)」があります。水はさまざまな形態に変化し、そこから生じる音も多様であるという特性から、水にまつわる擬音語は、人々の感情や情景、物の状態などをよりイメージしやすく伝えるための表現として発展してきました。

水の擬音語といえば、個人的に思い出すのは、北原白秋作詞の「雨降りのうた」です。

「♪ピッチピッチ チャップチャップ ランランラン・・・」。反復するリズム音を聞くだけで、小さな子どもが傘をさし、水たまりを跳ねながら歩く姿が目に見えそうです。

日本語の多種多様な擬音語は、私たちの生活や身体感覚に深く根付いていますが、実は海外の言語にも、水の音を表現する言葉が数多く存在します。ここでは、日本語と海外の言語における水の擬音語の一例をご紹介します。

<日本語>

落ちる音	ぼたぼた：水滴が次々と落ちる、したたり落ちる ぼちゃん / ぽちゃん / どぼん：水中に何かが落ちる / ものに落ちる	ぼたっ / ぽとっ：水滴が落ちる
流れる音	ちょろちょろ：細く弱い流れ どどど：濁流など、重く大きな流れ どぼどぼ：一気に流れ出す多量の流れ ジャブジャブ：勢いよく水をかき回す音	ざあざあ：勢いのある流れ ごうごう：激しい流れ ごぼごぼ / こぼこぼ：空気や泡を含む流れ じゃあじゃあ：多量で勢いのよい流れ こんこん：勢いよい流れ (絶えず湧き出る様子)
しぶきの音	ちゃぷちゃぷ：小さな波、子どもが遊ぶ音 しゃばしゃば：水をかける音 パシャッ / バシャッ：水面をたたいて水しぶきが上がる音	ちゃぷっ / ちゃぷん：静かに物が沈み跳ねる音 ざぼーん：波が打ちつける音
雨の音	ぼつぼつ：弱い雨 しとしと：静かにまばらに降り続ける	ばらばら：弱い雨がまばらに降る ざあざあ：強い雨

<海外の言語>

水の音が海外の人々にどのように聞こえ、どのように表現されているかには、それぞれの文化的背景や美意識、音とリズムに対する感性が反映されているともいわれています。同じ音がリズムよく繰り返されるのは万国共通のようです。

	英語	フランス語	ドイツ語	韓国語	中国語
ぼたぼた	drip-drip (ドリップドリップ)	ploc-ploc (プロックプロック)	tropf-tropf (トロフトロフ)	똑똑 / 똑똑 (トックットック)	滴答滴答 (dī dā dī dā)
ぽちゃん	plop (プロップ)	plouf (プルフ)	platsch/plumps (プラッチ/プルンプス)	퐁당, 침범 (ボンダン/チョムボン)	扑通 / 噗通 (pūtōng)
ぽとっ	plip/plop (プリップ/プロップ)	ploc (プロック)	plopp/plitsch (プロップ/ブリッチ)	똑 / 똑 (トック / トック)	滴答! / 啪嗒! (dīdā! / pādā!)
ごぼごぼ	gurgle/glug glug (ガーグル/グラググラ)	glou-glou (グルグル)	gluckern (グルッカーン)	부글부글 (ブグルブグル)	咕嘟咕嘟 (gūdū gūdū)
ちゃぷちゃぷ	lap lap (ラップラップ)	clapotis (クラポティ)	plätschern (クプレッチャーン)	찰박찰박 (チャルパクチャルパク)	哗啦哗啦 (huālā huālā)
ちょろちょろ	trickle/ dribble (トリックル/ドリブル)	ruisseler (レイゼール)	rieseln (リーゼール)	졸졸 (ジョルジョル)	淙淙 (cóngcóng)

参考：金 敬玲 (2021) 『「水・液体に関する」オノマトペの音象徴研究－音の組み合わせの観点から－』

https://opac.kokugakuin.ac.jp/webopac/daigakuinkiyō_052_005_?key=TFVWLY

注：擬音語の意、発音等については、生成 AI の検索結果を参考にまとめました。